

乳用育成牛の導入

4月15日から17日にかけて、南丹以北の酪農家から育成牛（平均3.6か月齢）21頭、短期育成牛（平均12.5か月齢）9頭を導入しました。

これらの牛は、今後半年から1年半育成し、和牛胚を移植して府内の酪農家に譲渡されますが、誕生する和牛子牛により、酪農家の所得が向上し、また、和牛子牛市場の活性化や京都肉の生産にも貢献することになります。



新しい仲間と共同生活をスタートさせた子牛たち

畜産技術センター
碓高原牧場